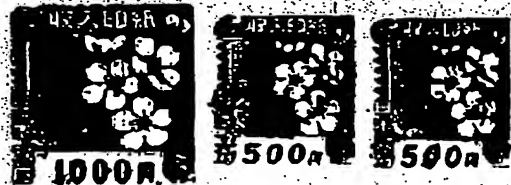


公開実用 昭和52—79009



(計500円)

実用新案登録願

昭和50年12月10日

特許庁長官

殿

1. 考案の名称 電話機の受発信装置

2. 考案者

住所 東京都港区新橋9-5-22
氏名 加藤 富夫

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都港区白金台4-7-10
氏名 オクレンキ
大倉電機工業株式会社

代表者 取締役社長 大倉 雅彦

4. 代理人

住所 176
東京都港区小竹町2丁目55番地
氏名 名称 955-7357 番
(6340) 弁護士 本 崎 啓

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) 委任状

- 1 通
- 1 通 特許庁
- 1 通 50.12.10
- 1 通 日 取 扱 二

実 査



50 165755

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1 考案の名称

公衆電話機の硬貨投入口装置

2 実用新案登録請求の範囲

電話機本体上に固定され、上面部に投入硬貨の案内スリットを備えるようにされるカバー体と、上面部に硬貨投入スリットを有し、上記カバー体の上面部上に固定されるケース体と、上記ケース体上の端を中心にケース体内で回動自在に装着され、回動化つれて自体の一部で上記硬貨投入スリットの開口を内側から閉鎖したり開いたりする蓋部材と、上記ケース体と蓋部材間に介装されて、同蓋部材が常に上記開口を閉じるように、且、
 人時には開くように
 硬貨の投入するスプリング部材から成る公衆電話機 硬貨投入
 の硬貨投入口装置。

3 考案の利点を説明

硬貨の投入によつて通話が可能になる従来の公衆電話機では硬貨の投入口が普通、開放されたままになっているため、これからじん芥や、時には雨水が入つて銀貨をつまらせたり、内地の作動機

機を不具合にすることが多い。また、このような従来のものでは硬貨投入の瞬間、硬貨を次々に余り間を置かずに投入すると、連続落下する硬貨によつて機の内側に不測の故障を起すことがある。

この考案はこのような従来の欠点を解消するため、回転する歯部材とスプリングの弾力を利用して、投入口が硬貨の投入につれて自動的に開くようにすると共に、扉には閉じた状態に在るようにしたもので、これによつて従来の欠点を解消し得たものである。

図で1は販賣機の本体2上に固定されるカバー体、3はカバー体の上面部上に固定されるケース体で、上面部には硬貨投入スリット4を備えている。5はカバー体の上面部にホルト6で附付される被動部材で、スリット4の直下に当る部分にこれと大略同形の投入硬貨案内スリット7が形成されている。8は投入スリット4の開口部に内側から当接して扉には投入口を閉じるようにされる円環形の歯部材で、ケース体3上の偏心軸9を中心に回転自在に設置される。この歯部材は長手端が

に切欠されて居る半出圓形部を有し、この平坦圓形部が蓋部材の回転につれて投入スリットの開口に内側から当接したり、これから離れたりして開口を閉じたり、開いたりするようにされる。且はケース体と蓋部材との間を突出ピン2個に介装される一対の仕掛スプリングで、硬貨の投入時には図の鎖線のように蓋部材の移動につれて伸長するが、硬貨の通過と同時に蓋を元の位置に戻して投入口を閉鎖するように強制する。

本案の装置ではスプリングの弾力で蓋部材が投入スリットの開口に仕接されて常に閉鎖されるので雨水やじん芥の侵入による不都合を解消し得るばかりでなく、投入硬貨はスリット4、7を通過中、スプリング力で蓋部材と仕掛の状態となるため、投入に時間的余裕を生ずる結果、従来の投入口のように強制的に硬貨を投入することによつて生ずる故障を防止することができる。また、本案装置は構造が簡単のため大量安価に製作できる上、カバー体を接合等の手段で本体上に取付けることにより電話機には格別の加工を施すことなく

使用できる等の特長を有する。

4 図面の簡単な説明

才1図は本発の一実施例の要部概略した側面図、才2図は同、平面図である。

1...フハー体、3...ケース体、4...投入スリット、7...投入実装部内スリット、8...発射部、11...比給スプリング。

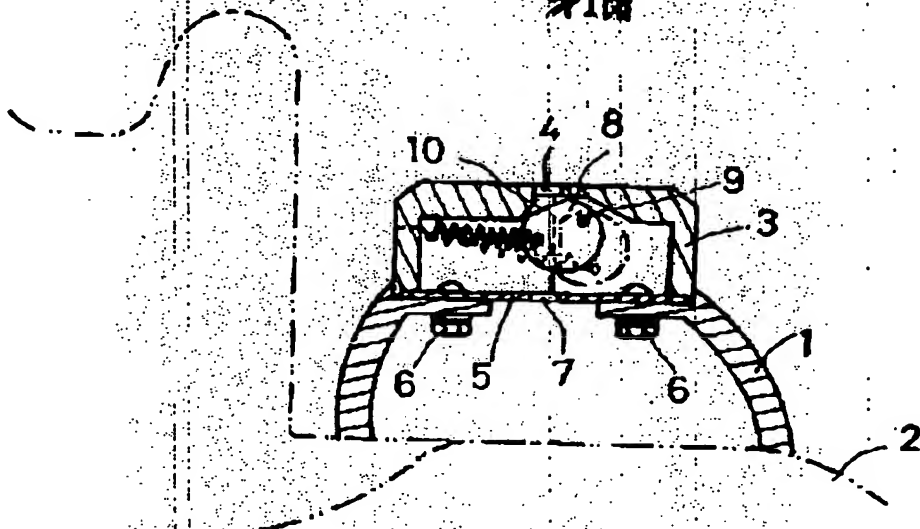
実用新案登録出願人

代理人 弁理士

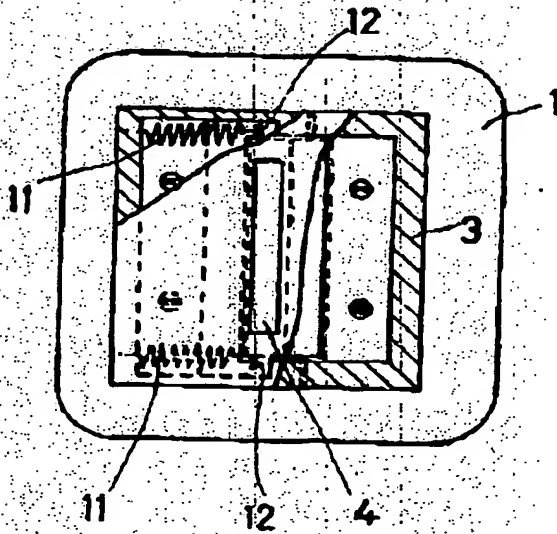
大倉電機工業株式会社

本 廠 啓

第1図



第2図



7-009

代理人弁護士 本 稿

BEST AVAILABLE COPY